



連携いあい

平成30年7月

第20号

岩手県立磐井病院

「磐井病院のこれまでとこれから」

院長 加藤 博孝



平成18年度に新築移転してから12年、平成29年度も職員の皆さまをはじめ、関係者の皆さまのご協力により順調に病院を運営できましたことを心より御礼申し上げます。

磐井病院は、広域基幹病院として救急・急性期医療、緩和ケア病棟を有する「がん治療」などの高度・特殊医療機能、地域医療支援病院(平成25年10月に認定)として両磐圏域の医療及び医療及び福祉・介護施設との役割分担と連携を担っております。

このような機能と健全経営が評価され、平成28年に全国自治体立優良病院表彰(協議会長表彰)を、平成29年6月には総務大臣表彰を受賞しました。また、同29年12月に病院機能評価を受審し、「一般病院2」及び「緩和ケア病院」機能における『機能種別版評価項目 3rdG:Ver.1.1』に認定されております。

職員一同の努力により、医療と経営の質の向上が図られ、ここまで来ることができました。

ハード面では、手狭であった救急外来・歯科口腔外科外来・化学療法室の拡張工事が平成29年8月で終了し、施設面の改善も図られました。今年度は、投薬窓口付近を改修し医療相談・入退院支援等を含めた「患者支援センター」を立ち上げる予定となっています。

今後の課題としては、やはり医師をはじめとするスタッフの増員が挙げられます。産婦人科は少ない医師数で年間650件の分娩を維持しており、加えて圏域内でお産対応施設の減があったことから、当院での分娩件数がさらに増加しています。小児科は現在5名体制ですが、医療圏の小児科医を全部合わせても8名と全く足りておらず、各科も含め医師確保は引き続き努力していく必要があります。

また、地域包括ケアについては、在宅医療と、医療・福祉・介護・歯科・薬局の情報共有システムの構築が大きな課題です。そのためには、各施設間での情報共有が重要であり、気仙地域で導入されている情報共有システム「未来かなえネット」の一関広域での実証実験に当院も参加しています。理想は、全国どこでも情報が共有できるシステムであり、国の対応にも期待したいところです。

これからも、当院の基本理念「地域の皆様に納得のできる医療を提供します」と行動指針のもと、地域医療への貢献、更なる経営改善の取り組み及び多職種連携による地域の医療・介護・福祉との連携に努めて参ります。

地域に必要な医療を維持し、「納得できる」効率良くかつ質の高い医療を提供できるよう、なくてはならない病院として、地域医療機関・施設の皆さまの支えとなることを心から願っております。



【病院機能評価認定証】

<岩手県立磐井病院 理念>

地域の皆様に納得のできる医療を提供します

<岩手県立磐井病院 行動指針>

- ① 患者さんの希望や背景を尊重します。
- ② 患者さんの個人情報を守ります。
- ③ 患者さんの安全に配慮し診療に全力を尽くします。
- ④ 地域における医療・介護・福祉の連携に貢献します。

Contents

- 磐井病院のこれまでとこれから・・・1
- 耳鼻科の開設について・・・2
- 3西病棟の紹介・・・2
- 新任医師紹介・・・3
- 研修医紹介・・・4
- 皮膚科の完全予約制について・・・4

耳鼻科の開設について

耳鼻咽喉科長 東 賢二郎

平成 30 年 4 月より磐井病院耳鼻いんこう科に着任となりました東(ひがし)と申します。移転前には耳鼻科常勤医がおりましたが、磐井病院が狐禅寺に移転してからは、常勤医不在となり派遣医師による外来診療のみで、なかなか積極的治療が困難な状態にありました。今年度より常勤医 2 名での診療体制となり、入院や手術加療なども可能となっております。

扱う疾患としては耳(難聴、耳鳴、めまいなど)、鼻(慢性副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎など)、口腔(口腔腫瘍、白板症、口内炎、味覚障害など)、咽喉頭(咽頭違和感、嚥声など)や急性炎症(扁桃炎、咽喉頭炎など)といった良性疾患を中心に診療しております。また悪性腫瘍(口腔癌、咽喉頭癌、鼻腔癌など)に関しても、岩手医科大学や東北大学とも連携をとり診療を行っており、耳鼻咽喉科領域の腫瘍性病変等ありましたらご紹介いただければと思います。

至らない面も多々あり、ご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、地域のみなさまの力となれるよう尽力する所存で、今後とも何卒よろしく願いいたします。お困りの際はいつでもお気軽にご相談ください。



【前列中央:東(耳鼻いんこう科長)、前列右:橋本(耳鼻いんこう科医長)、スタッフのみなさん】

入院病棟紹介 — 3 西病棟 —

3 西病棟 看護師長 菊池 宏美

3 西病棟は、産婦人科、小児科、新生児科、形成外科の病棟です。

産婦人科は妊産褥婦の気持ちに寄り添った看護を心がけており、妊娠中は、妊婦助産外来や母親学級(両親学級)を開催、お産後は 2 週間健診や産褥外来を行っています。

病棟には妊産褥婦や新生児に対して良質で安心な助産とケアを提供できることを目的に設立された認証制度の「アドバンス助産師」が 8 名います。アドバンス助産師が中心となり、安心・安全で質の高い助産ケアを目指して日々取り組んでいます。

また、WHO・ユニセフが推進する母乳育児「赤ちゃんにやさしい病院(BFH)」認定施設をめざして取り組んでいます。母と子の絆を強める母乳育児を推進し退院後も育児がスムーズにスタートできるように支援しています。

小児科では季節の飾りつけを行ったり、入院中の安全をサポートさせていただくために独自に作成した転倒転落の DVD を活用しています。

新生児科では赤ちゃんの順調な発育をサポートさせていただいており、育児ノートを使用しながら育児支援を行っています。

4 月から形成外科病床も加わりました。元気に退院される患者さんの笑顔を励みに毎日看護ケアを行っています。元気で明るい 3 西病棟をよろしくお願い致します。



【小児科、新生児科、産婦人科スタッフ】



【形成外科スタッフ】

平成 30 年度新任医師・研修医の紹介



今年度から新たに当院の一員として加わった新任医師・研修医 18 名の紹介です。皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

— 新任医師紹介 —



(かが けいこ)
氏名：加賀 敬子
役職名：第 1 産婦人科長
出身大学：東北大学

所属学会：日本臨床細胞学会（細胞診指導医）、日本産婦人科学会（産婦人科指導医）、母体保護法指導医、医学博士
専門分野：婦人科腫瘍
ひとこと：初心にかえて頑張ります。



(ひがし けんじろう)
氏名：東 賢二郎
役職名：耳鼻いんこう科長
出身大学（教室）：山梨医科大学
（東北大学耳鼻咽喉・頭頸部外科）

所属学会：日本耳鼻咽喉科学会（耳鼻咽喉科専門医）、頭頸部外科学会、頭頸部癌学会、癌治療学会（癌治療認定医）、頭蓋底外科学会、補聴器相談医
専門分野：耳鼻咽喉科一般 頭頸部腫瘍
ひとこと：どうぞよろしくお願い致します。



(よこやま なおのぶ)
氏名：横山 直信
役職名：消化器科医長
出身大学：岩手医科大学

所属学会：日本内科学会（内科認定医）、日本消化器病学会 日本消化器内視鏡学会専門医
専門分野：炎症性腸疾患
ひとこと：地域の皆様のお役に立てるよう努力いたします。



(ささき れな)
氏名：佐々木 玲奈
役職名：泌尿器科医長
出身大学：岩手医科大学

所属学会：日本泌尿器科学会（泌尿器科専門医）
専門分野：泌尿器一般
ひとこと：どうぞよろしくお願い致します。



(はしもと ひかる)
氏名：橋本 光
役職名：耳鼻いんこう科医長
出身大学：秋田大学

所属学会：日本耳鼻咽喉科学会
ひとこと：よろしくお願い致します。



(しみず たかのり)
氏名：清水 孝規
役職名：産婦人科医長
出身大学：東北大学

所属学会：日本産婦人科学会、日本産婦人科手術学会
ひとこと：当院の産婦人科はチームワークが良く一丸となって地域の医療に貢献して行きます。



(いまいずみ としやす)
氏名：今泉 利康
役職名：眼科医長

所属学会：日本眼科学会、白内障学会
専門分野：眼科一般



(あらかわ のぶゆき)
氏名：荒川 伸之
役職名：皮膚科医長
出身大学：岩手医科大学

所属学会：日本皮膚科学会、医学博士
専門分野：皮膚科一般
ひとこと：どうぞよろしくお願い致します。



(すがさわ まなぶ)
氏名：菅澤 学
役職名：消化器科 医師
出身大学：北里大学

所属学会：日本内科学会
専門分野：消化器
ひとこと：どうぞよろしくお願い致します。



(あべ しょうた)
氏名：安部 将太
役職名：歯科医師
出身大学：奥羽大学

所属学会：日本歯科麻酔科学会認定医
ひとこと：一生懸命頑張ります

— 研修医紹介 —



(いとう けいすけ)
氏名：伊藤 敬佑
出身大学：九州大学
ひとこと：まずは何でもやってみよう
と思います！



(いしだ たかゆき)
氏名：石田 喬之
出身大学：東北大学
ひとこと：一生懸命頑張ります。よろし
くお願い致します。



(かすだ きょうへい)
氏名：粕田 恭平
出身大学：東北大学
ひとこと：がんばります！



(ふるかわ なおき)
氏名：古川 直樹
出身大学：岩手医科大学
ひとこと：精一杯頑張ります！



(まつした りょう)
氏名：松下 良
出身大学：岩手医科大学
ひとこと：頑張ります！



(はたけやま たくし)
氏名：畠山 拓志
出身大学：信州大学
ひとこと：精一杯頑張ります。



(かとう あやか)
氏名：加藤 彩佳
出身大学：獨協医科大学
ひとこと：多くのことを学ばせていただき
いです。どうぞよろしくお願いします。



(かさらは たいち)
氏名：笠原 太一
出身大学：東北大学
ひとこと：精一杯がんばります。

皮膚科「完全予約制」への体制移行について

当院の皮膚科では、予約と予約外（当日来院）を平行して受付していたところですが、今年度に入り患者数増加したことに伴い、平成 30 年 6 月 1 日より完全予約制になっております。大変ご不便をおかけし、申し訳ございませんがご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

【留意事項】

- ① 救急患者及び当日受診が必要な紹介患者については、現状どおり受け入れいたします。
なお、当日紹介受診の場合は、紹介 FAX 送信前に担当医へ電話連絡をお願いします。
- ② 紹介以外の場合は、患者さんが直接電話（予約センター）で予約を取得できます。

『磐井病院 予約センター』

- ・ TEL 番号：0191-23-3453（直通）
- ・ 受付時間：平日の 9：00～17：00（土・日・祝日はつながりません）



岩手県立磐井病院

【連絡先】

〒029-0192 岩手県一関市狐禅寺字大平17
電話 (0191)-23-3452 Fax (0191)-23-9691
連携室直通 Fax (0191)-21-3990

【編集・発行】

岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室
病院ホームページ：<http://www.iwai-hp.com>
公式 Facebook：<http://www.facebook.com/iwaihp>



連携いあい

平成30年9月

第21号

岩手県立磐井病院

「患者支援センター」を開設しました



【患者支援センター：相談窓口】

H30年7月より、1F 総合受付横に「患者支援センター」を開設いたしました。相談窓口である「受付カウンター」及び「個別相談室」3室を新たに造設しております。

内容に応じた適切な職種（看護師、医療ソーシャルワーカー、事務員等）が対応できる体制を整えており、疾病や療養上の相談、医療費、入退転院、各種サービス・制度利用などの調整・支援・援助を行うとともに、地域の医療・介護施設等の皆様との連携窓口としても機能しています。お気軽に声をおかけください。

【詳しい紹介はP2に⇒⇒】

＜岩手県立磐井病院 理念＞

地域の皆様に納得のできる医療を提供します

＜岩手県立磐井病院 行動指針＞

- ① 患者さんの希望や背景を尊重します。
- ② 患者さんの個人情報を守ります。
- ③ 患者さんの安全に配慮し診療に全力を尽くします。
- ④ 地域における医療・介護・福祉の連携に貢献します。

Contents

- 「患者支援センター」を開設しました・・・1
- 総看護師長あいさつ・・・2
- 患者支援センター紹介・・・2
- 須田麻酔科長が救急功労者総務大臣表彰を受賞…3
- 救急科紹介・・・3
- どこでも医療講座の紹介・・・4
- 褥瘡予防対策委員会からのお知らせ・・・4

総看護師長あいさつ

総看護師長 平澤 智子



4月から磐井病院に着任しました。15年ぶりに一関に来て病院や市内の変化に驚いています。「熊が早朝に病院受診した？」と全国ニュースが出た頃に一関高等看護学院で働いていました。おかげさまで中堅看護師となった卒業生たちにも支えられて過ごしています。

当院は、患者満足度向上、医療安全、地域・多施設との連携強化を目的に「患者支援センター」を7月に設置しました。看護科は、地域の方々が住み慣れた環境で暮らし続けることを支えていくために、院内外で働く多職種の方々と連携して必要な医療・介護が継続できるよう努めてまいります。

また、その人らしさを大切にしたい優しさや信頼のある看護を提供するために、看護師一人ひとりが自律した看護職員として成長できるよう支援し、楽しくいきいきと働き続けられる職場環境づくりを進めます。地域の皆さまには、これまでと変わらないご支援をお願いいたします。

患者支援センター紹介

患者支援センター 浅沼 由子

H30年7月より患者支援センターが開設されました。

患者支援センターは、地域医療福祉連携室、医療福祉相談室（がん相談支援センター）、入退院支援室で構成されており、地域医療福祉連携室事務4名、医療ソーシャルワーカー（MSW）4名、がん相談支援センター専任看護師1名、入退院支援看護師5名が配属となっております。

それぞれの部門の役割は次の通りです。

【地域医療福祉連携室】1) 受診・転院などの連絡調整 2) 外部団体・機関・施設等との連携 3) がん拠点病院・地域支援病院の事務 4) 各種研修会等の企画調整 5) 広報・ホームページ・年報作成など

【医療福祉相談室（がん相談支援センター）】1) 医療費・生活費・就労に関すること 2) 福祉制度の利用方法について 3) がんに関する情報や悩み 4) セカンドオピニオンについての相談窓口

【入退院支援室】1) 入院に対する不安や分からない事 2) 退院後の介護、それに伴う在宅サービスの検討 3) 病気に関する質問・入院上の不安についての相談窓口

少子超高齢社会や認知症の増加、家族形態の変化、複数の慢性的な疾患をもつ人の増加など、社会の変化に伴い医療現場も変化してきており、治す医療から『可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられる生活を支える医療』への転換が求められています。また、『時々入院・ほぼ在宅』の生活に軸を置く支援を実践する病院・地域の役割が重要だと言われています。

そのような時代に答えるべく、患者支援センターでは入院前から患者・家族の医療上・生活上の課題を明らかにして、退院後の生活を見据えた支援を行い、各医療機関や地域との連携を推進して参ります。

センター受付窓口は総合受付付近に設置されておりますので、お気軽にお声を掛けて下さい。



後・中列：患者支援センター（医療相談室/入退院支援室）
前列：地域医療福祉連携室事務

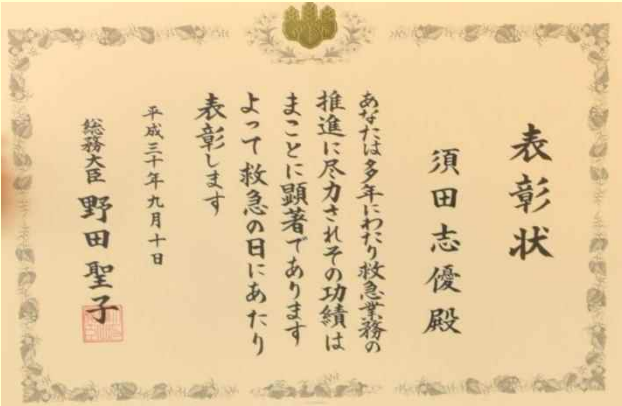


【相談室】

須田麻酔科長が「救急功労者総務大臣表彰」を受賞!!



【救急功労者表彰式】



【表彰状】

当院の須田^{すだしゅう}志優第1麻酔科長兼中央手術科長が、平成30年度救急功労者として総務大臣表彰（個人表彰）を受賞しました。

救急功労者表彰は、総務省（消防庁）が平素から救急業務の推進に貢献し、社会公共の福祉の増進に顕著な功績があった個人及び団体を表彰するもので、「総務大臣表彰」と「消防庁長官表彰（消防関係）」があります。

須田科長は、救急救命士、救急隊員の教育・指導及び救急業務に関する各種委員会の運営に尽力し、救急業務の高度化に貢献したこと、また病院実習において救急隊員に対し積極的な教育・指導を行い、地域の病院前救護の質の向上に大きく貢献するとともに、応急手当指導員として救命講習等に積極的に参加し、地域の応急手当の普及啓発に尽力したことが表彰対象となりました。

総務大臣の個人表彰は、今年度須田医師を含めても全国から13名という大変名誉ある賞です。

救急科紹介

救急科長 片山 貴晶

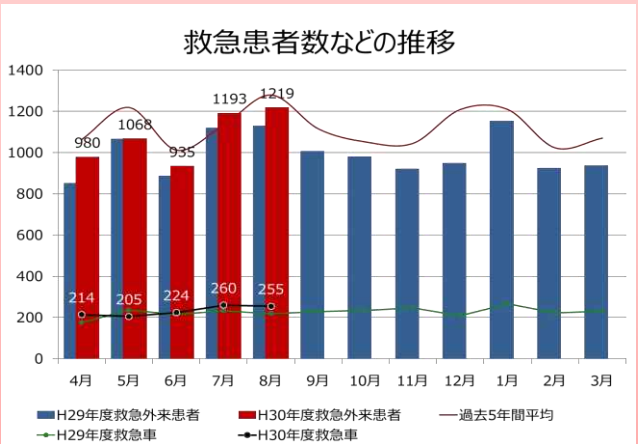
当院救急科では、救急外来での救急患者対応と病棟で救急患者入院管理を主に行っております。専任の救急科専門医2名を中心に診療と研修医の指導を行っています。当科で扱う患者は内科系疾患、外科系疾患問わず幅広く受け入れています。一人の患者様でも疾患が多岐にわたる事も多く、院内各科また隣接している県立南光病院精神科の先生方とも相談しながら診療を行っています。急性薬物中毒などの特殊救急疾患にも対応しておりますので、ぜひ御相談下さい。

当院救急外来は昨年3月に大規模な増改築が完了し、新しい救急外来で診療を行っています。重症室や全身洗浄室も備えているほか、災害時の多数傷病者にも対応できるような設備となっています。

また当科では一般外来診療や予約診療は行っていないため、救急で当科を受診した患者様や当科退院後の患者様の外来フォローアップなどは各医療施設でお願いしていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。



【救急処置室】



どこでも医療講座の紹介 ～当院職員がどこでも講演します～

◇どこでも医療講座とは？

地域の方々の希望に応じて、当院の担当職員を地域で開催する講演会の講師として派遣し、講座を開催するものです。当講座を通して、ご自身の健康や医療のことをより多く知っていただきたいと考えております。

今年度は既に8回開催しており、特に「お薬の正しい使い方」「こんな時どうする？応急処置を知ろう」の演題が人気となっております。地域の方々だけでなく、医療従事者の方からの申込みも受け付けておりますので、ぜひご活用ください。

◇開催内容等

(1) 対象地域

一関市及び平泉町全域

(2) 講演会にかかる費用について

①講師料・派遣料は**無料**です。

②会場の手配や会場の借り上げにかかる費用は、依頼者側の負担でお願いします。

(3) その他の条件について

受講希望者が10名以上の講習会等を企画願います。

※お申込み・詳細は「磐井病院ホームページ」または、「地域連携室（内線 1354）」までお問い合わせください。

「お薬の正しい使い方」は、薬剤師が講師をつとめます！



【今年行った講座の様子】

褥瘡予防対策委員会からのお知らせ

●褥瘡研修会を開催します

◇テーマ：

『こんなときどうする？褥瘡ケア【リハビリ編】』

～褥瘡予防につながるベッド上動作介助と車いす姿勢～

◇開催日時：10月12日（金）17:45～18:45

◇会場：磐井病院2F 多目的会議室

◇参加対象：医療・介護・福祉に携わる職種どなたでも

◇主催：岩手県立磐井病院 褥瘡予防対策委員会

◇参加費：無料

参加ご希望の方は、下記までお問い合わせ下さい。

申込締め切り日：9月28日（金）12:00

岩手県立磐井病院 医事経営課 内線 1353 まで

TEL：0191-23-3452

作業療法士が講師をつとめます！



●「床ずれ予防の日」イベントを開催します！！

◇開催日時：10月19日（金）9:00～15:00

◇会場：磐井病院外来待合・交流の街

◇参加対象：どなたでも

◇参加費：無料

◇申し込み：不要

10月20日は床ずれ予防の日です。床ずれって何だろう？予防するにはどうしたら良いの？床ずれに関する情報を、わかりやすくお伝えします。皆様ぜひお立ち寄りください。



岩手県立磐井病院

【連絡先】

〒029-0192 岩手県一関市狐禅寺字大平17

電話(0191)-23-3452 Fax (0191)-23-9691

連携室直通 Fax (0191)-21-3990

【編集・発行】

岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室

病院ホームページ：<http://www.iwai-hp.com>

公式Facebook：<http://www.facebook.com/iwaihp>



連携いあい

認知症サポートチーム（オレンジサポートチームの活動）



我が国では超高齢者社会に突入し、それに伴って認知症の方の入院が増えており、医療の現場では様々な職種が、増加する認知症の方への対応に追われています。認知症の症状は、生活習慣や職業、性格などが大きく影響しているため、様々な症状を呈します。そのため、その方に合ったきめ細やかなケアが必要となります。特に急性期病院においては、疾患・検査・治療による苦痛だけではなく、入院という急激な環境変化があり、認知症の方はとても混乱した状況に陥りやすくなります。

そのような方に安心・安全な医療を提供できるように、8月から認知症サポートチーム（オレンジサポートチーム）が立ち上がりました。チームは神経内科医師・社会事業福祉士・認知症看護認定看護師・薬剤師・作業療法士・臨床検査技師・認知症プロジェクトメンバー（看護科）で構成されています。週一回のラウンドを通して、認知症による行動・心理症状のある方や、意思疎通が困難で身体疾患の治療への影響が見込まれる方に対し、以下の項目に重点を置き、ケア方法の検討およびスタッフへの指導を行っています。

- 1) 身体疾患を合併して入院した認知症者への対応力とケアの質を向上させること
- 2) せん妄や行動・心理症状の予防および初期介入を適切に行い、認知症者の QOL 低下を防ぐとともに、認知症者・家族の心理的・身体的苦痛を軽減すること
- 3) 多職種の視点で認知症者の状態を把握・評価し、症状の悪化を防ぐことや、身体疾患の治療が円滑に受けられるようにすること

始まってまだ間もないのですが、毎週のラウンドの際には、認知症の方の笑顔が増えた、ご自身で食事を摂取できるようになった、自力でトイレまで歩行できるようになったなどの成果が出ています。これからも職員や地域の皆さんと協力しながら、認知症の方にやさしい病院づくりに貢献していきたいと思ひます。

認知症看護認定看護師 渡邊 加奈子

<岩手県立磐井病院 理念>

地域の皆様に納得のできる医療を提供します

<岩手県立磐井病院 行動指針>

- ① 患者さんの希望や背景を尊重します。
- ② 患者さんの個人情報を守ります。
- ③ 患者さんの安全に配慮し診療に全力を尽くします。
- ④ 地域における医療・介護・福祉の連携に貢献します。

Contents

- 認知症サポートチーム（オレンジチームの活動）・1
- 次期活動計画（最終案）の骨子と県立磐井病院の今後の方向性・・・・・・・・・・2,3
- 県南地区入退院支援看護師等連携会議を終えて・2
- 認知症の研修会を開催しました・・・・・・・・・・3
- 新任医師の紹介・・・・・・・・・・4

「次期経営計画（最終案）の骨子と県立磐井病院の今後の方向性」

事務局長 小笠原 秀俊

磐井病院を含む県立病院の経営の基本となる「経営計画」については、現在、平成31年度（2019年4月～）を初年度とする6年間を対象とする「次期経営計画」の策定作業が進められています。

これまでに、①県医療局が策定した「素案」について、県議会・市町村に提示、説明、②県議会・市町村から寄せられた意見をもとに内容を一部見直した「中間案」の策定、③「中間案」をもとにパブリック・コメントを実施し意見集約、④パブリック・コメントに寄せられた意見をもとに内容の一部見直し等を行い「最終案」を策定、という段階を経ており、計画の記載部分、目標とする経営指標、収支計画等についてもほぼ固まった段階となっています。その骨子と特長等についてご紹介します。

○次期経営計画（2019～2024）の特長と5つの基本方向

県民に良質な医療を提供するため、「経常的な黒字経営を目指す」だけでなく、今後の経営に必要となる投資にも対応できる「黒字（経営）体質の確立が必要」であることから、「持続可能な経営」に関する項目が基本方向に盛り込まれています。

また、「良質な医療の提供」と「持続可能な経営」を両立するためには、医師をはじめとする職員の体制整備が必要であることから、「医師確保」、「医師の負担軽減」、「職員の適正配置」に関する項目が盛り込まれています。

《次期経営計画・5つの基本方向》

- ◇県立病院間・他の医療機関及び介護施設等を含めた役割分担と地域連携の推進
- ◇良質な医療を提供できる環境の整備
- ◇医師不足解消に向けた医師の育成・確保と医師の負担軽減に向けた取組の推進
- ◇職員の資質向上と患者数等の動向や新規・上位施設基準の算定を踏まえた人員の適正配置
- ◇持続可能な経営基盤の確立

○磐井病院の役割・特色と今後の方向性

次期経営計画には全ての病院、地域診療センターについて、立地する「圏域の現状と課題」、「今後の方向

県南地区入退院支援

看護師等連携会議を終えて

去る10月26日に、県南地区入退院支援看護師等連絡会議が当院多目的の会議室で開催されました。

両磐圏域の3県立病院（磐井・千厩・大東）では、平成28年から退院支援看護師の活動報告・情報交換及び問題解決を目的に、同様の会議を年

3回開催していましたが、全国的に病院間の連携が重要視される中で、一関市のみならず奥州市を含む県南地区においても近隣病院との連携をより深めるための取組が必要であるとの考えから、昨年度より前述の3県立病院を含む県南地区の14病院が参加する『県南地区退院支援看護師等連携会議』を開催しています。

今年度は、各病院の看護師長・入退院支援看護師・MSW・地域連携室等の参加があり、入院時支援加算の算定開始を受けて、名称を「入退院」と改称しました。

各病院から「自院の特徴・受け入れ状況」「診療報酬改訂後の入退院支援に関する活動内容等の情報共有」等を発表して頂き、互いの現状を具体的に知る良い機会となりました。その他、「在宅復帰率の維持に関する取り組み」「診療報酬改定に伴う居宅事業所等からの依頼への対応」「退院時共同指導料の算定方法」等についても意見が交わされ、各病院での対応を共有する事で、今後の活動への糸口となりました。

この会議を開催する最大の利点は「顔の見える連携」です。病院間の連絡は電話対応がほとんどですが、会議前や終了後には参加病院間での挨拶や名刺交換等の場面が多く見られ、顔合わせ・意見交換の場として活用されており、電話では確認出来ない相談等を行うことが出来ました。多忙の中、また遠方より参加いただいた病院もありましたが、お互いに有意義な時間となったと思います。

来年度以降も、一関市及び奥州市を含む近隣病院との連携をより深めるため継続開催を考えております。



患者支援センター 浅沼 由子

性」も個別に記載されます。その中で磐井病院の「役割と機能」、「今後の方向性」についてご紹介します。
◇磐井病院の病床規模については、計画期間中の変更・見直し等の具体的な予定はないこと。

・一般305床、結核10床、計315床（許可病床数どおり）

◇圏域の基幹病院としての機能を担い、救急医療、高度・専門医療を担うこと。

・救急告示病院として二次救急医療を提供、急性期を中心とした病床機能を担う。

・地域がん診療拠点病院として専門的ながん医療、緩和ケアを提供する。

・地域周産期母子医療センターとして周産期に係る比較的高度な医療を提供する。

◇地域医療支援病院として紹介患者を積極的に受入れ、地域の医療従事者に対する研修の開催などを通じ、かかりつけ医の支援、連携を強化すること。

◇臨床研修病院として臨床研修医受け入れを積極的に行うなど、医師（研修医、専攻医を含む）や医療技術者等の研修・養成支援を通じた人材育成を行うこと。

◇地域災害拠点病院として災害派遣医療チーム(DMAT)の派遣や被災地内の重症傷病者の受け入れを行うこと。

ご紹介したとおり、次期経営計画においても、当磐井病院の役割、機能、目指す方向性にこれまでと比べて大きな方針変更はないとも言えます。しかしこれからも圏域・地域の高齢化は進んでいくことは避けられませんが、これに伴う疾患構造の変化や、薬品・医療機器・医療技術・各種システムの開発・進化などが社会情勢に与えるインパクトも昨今では非常に大きなものがあります。

また、医療機関は医療の現場は、多数の職種・スタッフが下支えしており、人的サービスが基本になっているという点では典型的な職場、事業所でもあり、昨今話題となることが多い政府が進める「働き方改革」などについても直接的な影響を受けやすい環境にあります。

今後も大きな環境変化が予測される中、地域、圏域の中でこれまでと同じ役割、機能を維持し責任を果たしていくためにはいたずらに旧を守るのではなく、状況に応じた内部の改革はむしろ積極的に進めていく必要があります。地域の皆様、連携機関・団体の皆様には引き続きご支援とご理解を賜りますようお願いいたします。

認知症の研修会（一関市医介連主催研修会） を開催しました



参加しており、一関市との共催で毎年研修会を行っています。今年度はテーマを『認知症と地域支援 -認知症患者のためにわたしたちが行っていること-』と題して、10月28日に一関保健センターを会場として開催し、一関市内の各機関からそれぞれの認知症に対する取り組みや対応など4題の講演を行いました。

市の担当課である長寿社会課からは、高齢者福祉計画の説明のほか、初期認知症への支援チーム、徘徊高齢者のためのネットワークなど様々な取り組みについて資料を交えて紹介いただき、また一関警察署：生活安全課からは、行方不明者の状況や認知症患者の取扱い件数など具体的な対応実績を中心にお話いただきました。

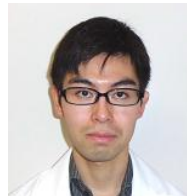
さらに医療機関の取り組みとして、南光病院の認知症認定看護師及び磐井病院の神経内科医師より、認知症の症状や予防、進行・症状の度合いに応じた実際の支援、加えて認知症についての間違いやすい認識についても説明させていただきました。

「認知症」という身近なテーマで関心が高かったことが伺え、当日は一般の方及び医療・介護関係者併せて100名を超える来場があり、アンケートからも「分かりやすかった」「知らないことが分かり勉強になった」というコメントが多い結果でした。

新 任 医 師 紹 介



10月より新しく赴任された先生方の紹介です。
連携機関の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。



(いくしま ひろゆき)

氏 名：生島 寛享
役 職 名：耳鼻いんこう科医長
出身大学：信州大学

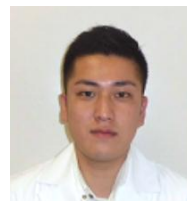
所属学会：日本耳鼻咽喉科学会、日本鼻科学会
専門分野：耳鼻咽喉科一般
ひとこと：どうぞよろしくお願いします。



(たにむら ふみと)

氏 名：谷村 史人
役 職 名：産婦人科 医師
出身大学：岩手医科大学

所属学会：日本産婦人科学会
ひとこと：ひとりでも多くの産婦人科患者さん（女性患者さん）の力になれるようがんばっていききたいと思います！



(はぎはら たつや)

氏 名：萩原 達也
役 職 名：産婦人科 医師
出身大学：東北大学

所属学会：日本産婦人科学会
ひとこと：患者様に寄り添う診療を心掛けています。

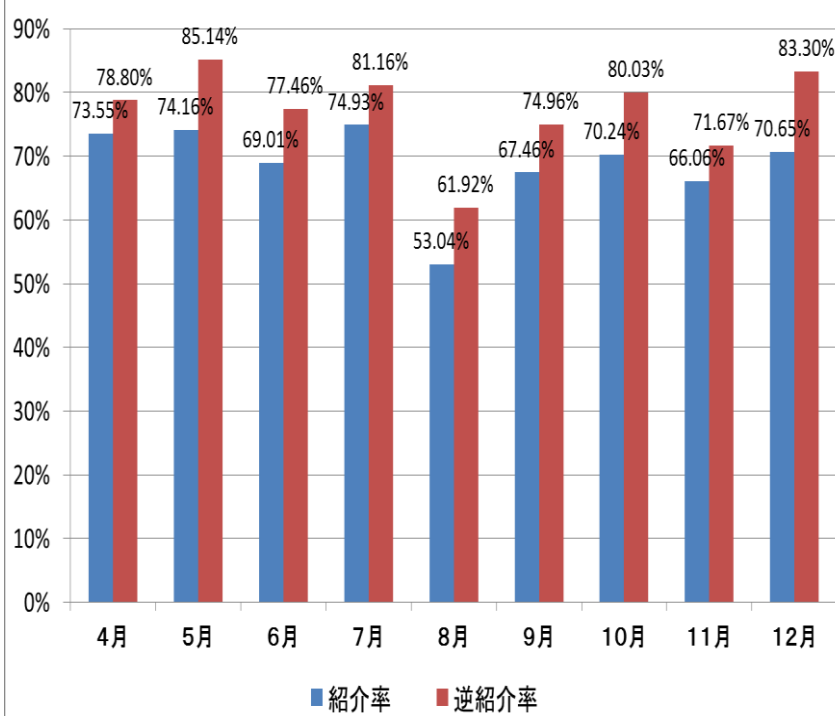
紹 介 率 ・ 逆 紹 介 率

当院は、平成 25 年 10 月より地域医療支援病院の指定を受けております。患者に身近な地域で医療を提供されることが望ましいという観点の元、地域の中核病院として各医療機関と適切な連携を図っていくよう努めております。そうしたなかで、紹介率・逆紹介率は、第一線の地域医療を担う、かかりつけ医を支援する一指標として用いられており、地域医療支援病院の承認要件（当院では紹介率 50%越え、かつ、逆紹介率が 70%を越えること）ともなっています。



皆様のご協力のおかげで、今年度の紹介率・逆紹介率の承認要件を満たすことができ
おります。
誠にありがとうございます。

201804-201812 紹介率・逆紹介率の推移



岩 手 県 立 磐 井 病 院

【連絡先】

〒029-0192 岩手県一関市狐禅寺字大平17
電話(0191)-23-3452 Fax (0191)-23-9691
連携室直通 Fax (0191)-21-3990

【編集・発行】

岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室
病院ホームページ:<http://www.iwai-hp.com>
公式 Facebook:<http://www.facebook.com/iwaih>



連携いあい

平成31年3月

第23号

岩手県立磐井病院

第5回公開クリニカルパス大会を終えて



公開クリニカルパス大会



講師：船田 千秋 氏



公開クリニカルパス研修会

2019年2月1日磐井病院公開クリニカルパス大会が開催された。今回の目的は、いかに煩雑な看護記録を効率よく短時間で記録できるように改変し、看護師の超勤を減らすことができるかにあった。そのためこの分野のトップランナーである名古屋大学の船田千秋先生を講師として呼び出した。

船田先生の御依頼で当院の自信のある腹腔鏡下大腸切除パスを提出したところ、アウトカム志向でないと一蹴され、公開パス大会の前にパス委員のコアメンバーを集めた『アウトカム志向でパスを作ろう』研修会も公開で開かれることとなり、パス認定士に必要な点数2点を合計2つの会でもらえることとなった。

船田先生は、公開パス大会での自分の出番の5時間も前に来院し、当院パスを見て、パスを使用すれば看護記録はいらぬ指針を看護協会が昨年出したこと、当院パスの改修方法、とくに褥瘡や転倒転落の書き方の工夫を教えてくれた。

次ページへ続く⇒⇒

＜岩手県立磐井病院 理念＞
地域の皆様に納得のできる医療を提供します

＜岩手県立磐井病院 行動指針＞

- ① 患者さんの希望や背景を尊重します。
- ② 患者さんの個人情報を守ります。
- ③ 患者さんの安全に配慮し診療に全力を尽くします。
- ④ 地域における医療・介護・福祉の連携に貢献します。

Contents

- 第5回公開クリニカルパス大会を終えて・・・1,2
- 磐井病院外科における大腸癌手術について・・・2
- 摂食えん下チームの紹介・・・3
- 平成30年度地域連携パス検討会について・・・3
- 医療安全管理室からのお知らせ・・・4
- 2019年大型連休の外来診療体制について・・・4

その後、公開パス研修会が開催され、グループワークで自分たちの持っていたパスをアウトカム志向かどうか検討した。私が考えるアウトカム志向パスとは、観察項目名称とそれに紐づく観察名称管理番号(MEDIS)の達成でアウトカムが達成されるようなパスと想っていたが、それだけではなくタスクもアウトカムが達成されるように設定されねばならないというのは目からうろこであった。そういう意味では当院の看護分野のタスクは、まったくアウトカム志向になっていなかった。



公開パス大会は、院内 39、院外(県内) 4、院外(県外) 1 の計 44 名が参加され、職種別では看護師 32、医師 6、薬剤師 2、事務 1、リハビリ 1、栄養士 1、MSW 1 であった。最初に院内発表「誤嚥性肺炎パスの作成」を小野寺看護師が、そのあとの補足を呼吸器科の駒木医師が行った。発表の要点は、当院にはなかった誤嚥性肺炎パスを当院データをもとに治療分野を作成し、再発予防策を盛り込み、経済的観点からも検討を行ったものであった。船田講師のご講演は、「パスから考えよう。看護記録の効率化」の題で行われた。要点には、看護協会が看護記録はパスでの記録でよいと明文化したため、みんなでよく考えて重複記載のないアウトカム志向のパスを作る必要があること、「型があるから型破り。型がなければ、それは型なし」の言葉に代表されるように個別化は標準化された後に行わなければならないこと、目標があつての標準化、セット化が必要であることなどが述べられた。施行後のアンケート調査では、5段階評価で院内発表は4以上が 91%、講演は 93%というかつてない高評価を得た。パス大会後の懇親会も 15 人程度が集まり、それぞれのテーブルでパス談議に花を咲かせた。以上、パスをやるものにとって実に実りのある1日となったわけであるが、このような幸せな1日を過ごさせていただいた船田講師に深く感謝したい。

クリニカルパス委員長 佐藤 耕一郎

磐井病院外科における大腸癌手術について

外科医長 伊藤 想一

大腸癌の新規罹患数は 2014 年にはじめて第1位となり、今後も増加が続くと考えられています。実際、磐井病院外科で大腸癌手術を行う患者さんの数も増加傾向です。大腸癌の手術においては、近年、腹腔鏡手術が急速に普及し、現在ではほぼ一般的と言えます。腹腔鏡手術の傷は図のように開腹手術と比べて小さく、患者さんの身体的負担は小さいと考えられています。国内外の臨床試験において、腹腔鏡手術は従来の開腹手術と比較して、長期成績(全生存率や無再発生存率)は同等で、短期成績(出血量や入院期間、社会復帰までの期間)は優れて

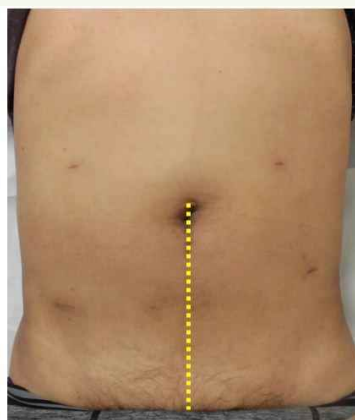
いることが示されています。

直腸癌の手術症例(当院施行例)

腹腔鏡手術の場合



一般的な開腹手術の場合



※一例です。創の大きさは症例により異なります。

当院の 2018 年の大腸癌に対する腹腔鏡手術施行率は約 53%(98 例中 52 例)と約半分となっていますが、身体的負担が少ないという腹腔鏡手術のメリットは我々外科スタッフも実感しているところであり、今後、鋭意増やしていきたいと考えております。今後とも、患者さんのご紹介を是非よろしくお願い申し上げます。

摂食えん下チームの紹介

「食べること」は人間が生きていくために必要であり、生きる楽しみにつながることで。しかし病気や障害、加齢等によって、食べ物の通り道に何らかの問題が生じると飲み込みが悪くなり、摂食（食べること）嚥下（飲み込むこと）がうまく行えなくなることがあります。よくみられる症状はむせやのどの違和感、痰がからむ、食欲低下、体重減少等です。嚥下機能が低下すると誤嚥性肺炎、栄養障害、脱水等を引き起こします。

磐井病院では 2018 年度より摂食嚥下チームを新たに立ち上げし活動しています。以前から活動していた栄養サポートチーム（NST: nutrition support team）の下部組織として、耳鼻咽喉科医師、言語聴覚士を中心に、医師、歯科医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、歯科衛生士など多くの医療専門職が協同で、患者さんに合った食事内容・栄養摂取方法を検討しています。

内容としては、耳鼻咽喉科医師による嚥下内視鏡検査、嚥下造影検査を中心とした嚥下機能の評価と、その結果に基づいた、飲み込む力を鍛える専門的な嚥下訓練、むせにくいよう調理方法を工夫した食事の選択、食事姿勢の調整、介助方法の指導などを行います。また多職種による月 1 回のカンファレンスを行っています。

嚥下チームの立ち上げ後、各科からの嚥下評価・嚥下リハビリテーションの依頼も増加しています。これからも職員、地域の皆さんと協力しながら、口からおいしく安全に食べられるように支援する活動を進めていきたいと思っています。

主任言語聴覚士 山桑 淑子



嚥下造影検査



嚥下内視鏡検査



嚥下カンファレンス

平成 30 年度地域連携パス検討会について

主事 長谷川 あや

当院を含む両磐地域の計 40 医療機関（施設を含む。）では、脳卒中と大腿骨頸部骨折の 2 疾患について「地域連携パス」を運用しています。

「地域連携パス」は、参加施設を急性期・回復期・維持期の担当に分け、各施設が連携して切れ目のない医療を提供することで早期の機能回復と治療の質の向上を図るもので、定期検討会として年 3 回参加施設が集まり運用に関する事項について協議・意見交換を行っています。

2/27（水）の今年度第 3 回検討会では、適用件数の報告のほか症例検討や各施設の現況報告等が行われました。ここ数年では、大腿骨パスの適用件数が増加し今年度も 70 件を超えていますが、脳卒中パスは運用件数が一桁に留まっており、伸び悩みが課題の一つとなっている現状です。

参加施設の皆様には、日頃からの運用に感謝申し上げますと共に、引き続きのご協力を併せてお願い致します。



脳卒中地域連携パス検討会



脳卒中地域連携パス検討会
症例検討（昭和病院）



大腿骨頸部骨折地域連携パス検討会
会長 中山 明里（当院 整形外科長）

今年度、医療安全対策加算における医療安全対策地域連携加算が新設になり、医療安全加算 1 の届け出医療機関（栗原市立栗原中央病院）及び医療安全対策加算 2 の届け出医療機関（県立大東病院）それぞれについて医療安全対策に関して評価を実施。また、当院も栗原中央病院から医療安全に関する評価を受けました。

- 【当院の診療報酬改訂後医療安全算定加算】
（現行）の医療安全対策加算 1：85 点
+（新）医療安全対策地域連携加算 1：50 点

- 医療安全対策地域連携の利点として、
- ・ 他施設の専門家のチェックが入ることで問題点が明確化
 - ・ 他施設の意見は受け入れやすい
 - ・ 自施設にない目線のアイデアや設備改善のアイデアが得られる
 - ・ 情報共有のきっかけとなる
 - ・ 継続的な病院間連携が構築できる

- 問題点として
- ・ 医療安全相互チェック項目は 100 以上あり、訪問の準備に時間を要する
 - ・ 病院間の評価項目に違いがある
 - ・ 評価の内容が曖昧であり、評価項目のすり合わせが必要等
- 課題もありますが、医療安全の強化、改善につなげられるよう連携していきますのでご支援をお願いします。



2019 年大型連休の外来診療体制について

今年 4～5 月にかけての大型連休（GWゴールデンウィーク）は 10 連休となりますが、当院では連休期間中 **4 月 30 日及び 5 月 2 日の両日、通常の平日と同様に外来診療を行います。**
（外来は原則予約患者さんが対象です。また、救急対応・紹介 F A X 等も通常どおり行います）
ただし、下記のとおり休診となる診療科もありますので、紹介等の際はご注意ください。

- 【休診の診療科】（H31 年 3 月時点）
- ◆循環器科 ◆脳神経外科 ◆皮膚科
 - ◆小児科 ◆新生児科 ◆画像診断科
 - ◆外科（化学療法は対応） ◆総合診断科
 - ◆放射線治療科（再来照射は実施）
 - ◆婦人科（産科は診療）

4月27日 (土)	28日 (日)	29日 (祝日)	30日 (火)	5月1日 (祝)
休診	休診	休診	診療日	休診
2日 (木)	3日 (祝)	4日 (祝)	5日 (祝)	6日 (振替)
診療日	休診	休診	休診	休診



岩手県立磐井病院

【連絡先】
〒029-0192 岩手県一関市狐禅寺字大平17
電話(0191)-23-3452 Fax (0191)-23-9691
連携室直通 Fax (0191)-21-3990

【編集・発行】
岩手県立磐井病院 地域医療福祉連携室
病院ホームページ:<http://www.iwai-hp.com>
公式 Facebook:<http://www.facebook.com/iwaihp>